第２章

幸福実感指標の現状

この第２章では、「みえ県民力ビジョン」において設定した 15 の幸福実感指標に基づき質問した「地域や社会の状況についての実感」について、属性ごとのクロス集計、５年間の推移等による分析を行いました。

第１節　15 の幸福実感指標の結果概要

１　幸福実感指標

15 の幸福実感指標は「みえ県民力ビジョン行動計画」において、政策分野ごとに設定したもので、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

幸福実感指標とそれに関連する県の政策分野は以下のとおりです。

問２	幸福実感指標	関連する県の政策分野
（１）	災害の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	防災・減災
（２）	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
（３）	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
（４）	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合	暮らしの安全を守る
（５）	身近な自然や環境が守られていると感じる県民の割合（※　今回調査で質問を変更）	環境を守る
（６）	性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合（※　今回調査で質問を変更）	人権の尊重と多様性を認め合う社会
（７）	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	学びの充実
（８）	結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っていると感じる県民の割合（※　今回調査で質問を変更）	希望がかなう少子化対策の推進
（９）	スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じる県民の割合（※　今回調査で質問を変更）	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域の活力の向上
(11)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(12)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんで多様な産業
(13)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保と多様な働き方
(15)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤

２　全体の状況（図表 2-1-1 参照）

15 の幸福実感指標についての今回調査結果、前回調査及び第１回調査結果との比較についての概要は次のとおりです。それぞれの項目の詳細については、次節において記載しています。

⑴　今回調査結果の概要

『実感している層』の割合を高い順に見ると、３番目までは次のようになっています。

(11)　三重県産の農林水産物を買いたい(85.5%)
(10)　自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい(73.1%)
（４）　犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている(60.2%)

また、『実感していない層』の割合を高い順に見ると、３番目までは次のようになっています。

(14)　働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている(65.5%)
（１）　災害の危機への備えが進んでいる(56.3%)
（６）　性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている(55.5%)

※『実感している層』の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第２位で四捨五入した数値の合計
※『実感していない層』の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第２位で四捨五入した数値の合計

⑵　前回調査との比較

前回調査時よりも４項目で実感が高く(※)なっており、３項目で実感が低く(※)なっています。

『実感している層』の割合の変化の幅が大きい順の３項目は次のとおりです。

(13)　国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる（実感：＋5.2 ポイント）
（３）　必要な福祉サービスが利用できている(実感：－3.3 ポイント)
（４）　犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている(実感：－2.6 ポイント)

※『実感が高く』・・・今回調査と前回調査との比較で、『実感している層』の割合が増えている、又は『実感していない層』の割合が減っており、統計的に有意な水準の差がある場合（危険率５%未満）
※『実感が低く』・・・今回調査と前回調査との比較で、『実感している層』の割合が減っている、又は『実感していない層』の割合が増えており、統計的に有意な水準の差がある場合（危険率５%未満）

⑶　第１回調査との比較

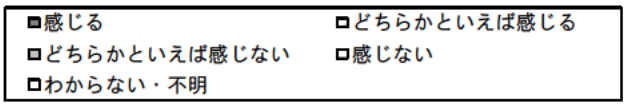
第１回調査時よりも８項目で実感が高く(※)なっており、２項目で実感が低く(※)なっています。

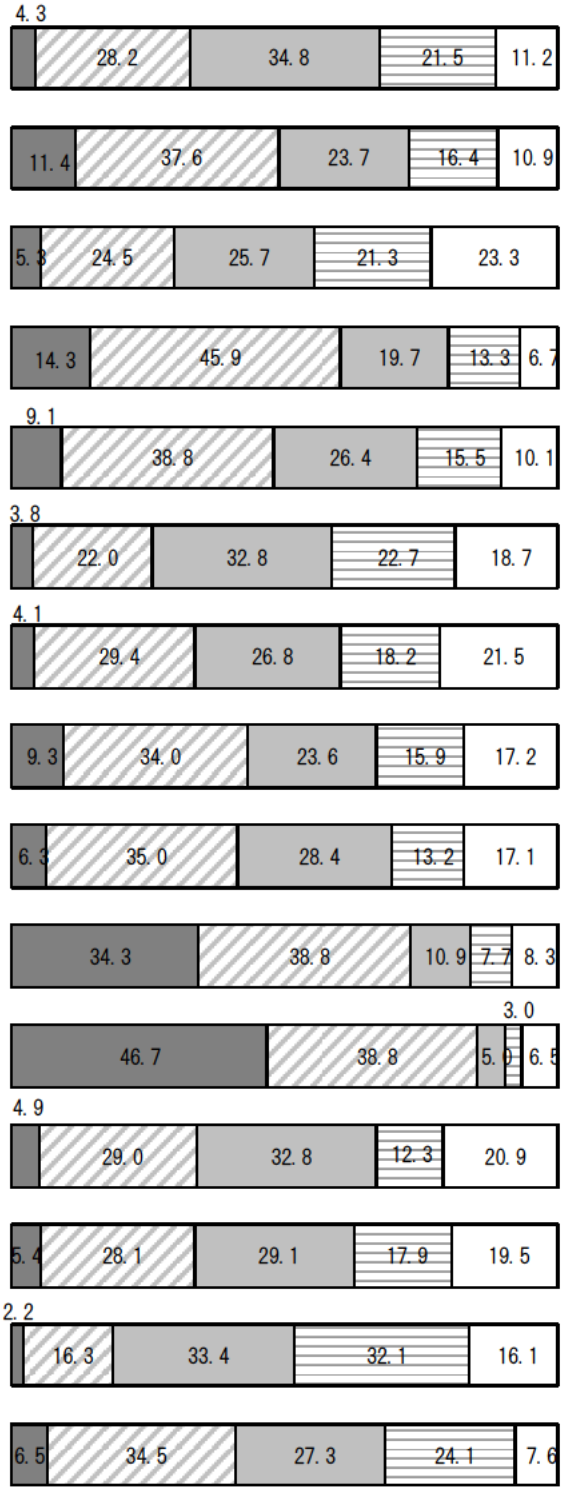
『実感している層』の割合の変化の幅が大きい順の３項目は次のとおりです。

(13)　国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる(実感：＋16.2 ポイント)
（１）　災害の危機への備えが進んでいる(実感：＋8.1 ポイント)
(12)　県内の産業活動が活発である(実感：＋6.1 ポイント)

※『実感が高く』・・・今回調査と第１回調査との比較で、『実感している層』の割合が増えている、又は『実感していない層』の割合が減っており、統計的に有意な水準の差がある場合（危険率５%未満）
※『実感が低く』・・・今回調査と第１回調査との比較で、『実感している層』の割合が減っている、又は『実感していない層』の割合が増えており、統計的に有意な水準の差がある場合（危険率５%未満）

図表 2-1-1　地域や社会の状況についての実感（項目別）





	実感している層 今回 %	実感している層 （前回差）〈第1回差〉 ポイント	実感していない層 今回 %	実感していない層 （前回差）〈第1回差〉 ポイント
(1)災害の危機への備えが進んでいる	32.5	(1.3) <8.1>	56.3	(-1.6) <-10.2>
(2)必要な医療サービスが利用できている	49.0	(-0.5) <3.6>	40.1	(0.8) <-5.0>
(3)必要な福祉サービスが利用できている	29.8	(-3.3) <-2.9>	47.0	(2.6) <1.0>
(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている	60.2	(-2.6) <1.3>	33.0	(1.6) <-3.4>
(5)身近な自然や環境が守られている	47.9	(-) <->	41.9	(-) <->
(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている	25.8	(-) <->	55.5	(-) <->
(7)子どものためになる教育が行われている	33.5	(2.1) <5.8>	45.0	(0.1) <-4.9>
(8)結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている	43.3	(-) <->	39.5	(-) <->
(9)スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境が整っている	41.3	(-) <->	41.6	(-) <->
(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい	73.1	(0.7) <0.0>	18.6	(-0.6) <-1.1>
(11)三重県産の農林水産物を買いたい	85.5	(1.0) <-1.9>	8.0	(-0.8) <0.1>
(12)県内の産業活動が活発である	33.9	(1.5) <6.1>	45.1	(-2.8) <-9.0>
(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる	33.5	(5.2) <16.2>	47.0	(-5.1) <-17.2>
(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている	18.5	(0.5) <4.8>	65.5	(0.0) <-7.2>
(15)道路や公共交通機関等が整っている	41.0	(-2.1) <3.5>	51.4	(2.2) <-4.5>

（備考）　（前回差）及び〈第１回差〉の数値に下線を付けているのは、統計的に有意な水準（危険率５％未満）の場合です。

第２節　それぞれの幸福実感指標の現状

１　災害の危機への備えが進んでいる（問２－１）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-1 参照）

○　『実感している層』は 32. 5%、『実感していない層』は 56. 3%です。
15 項目中、『実感していない層』の割合が２番目に高くなっています。

○　『実感していない層』が『実感している層』より 23. 8 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	伊勢志摩、東紀州	北勢
性　　別		男性
年　　齢	40 歳代、70 歳以上	20 歳代、50 歳代
主な職業	専業主婦・主夫、無職	正規職員
配偶関係		未婚
世帯類型		
世帯収入	～100 万円、600～800 万円	～100 万円、500～600 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-2 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が高くなっています。
（『実感していない層』：－1. 6 ポイント）

・　第１回調査以降、実感が高くなる傾向にあり、第１回調査時との比較における『実感している層』の割合の増加幅は、15 の幸福実感指標の中で２番目に大きくなっています。
（『実感している層』：＋8. 1 ポイント、『実感していない層』：－10. 2 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域		全地域		
性　　別		全性別		
年　　齢	30～40 歳代	全年齢層		
主な職業	正規職員、その他職業	自営業・自由業、正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他職業、専業主婦・主夫、無職		
配偶関係	有配偶	全配偶関係		
世帯類型	三世代	全世帯類型		
世帯収入	300～400 万円			

(3)　分析・考察

・第１回調査から、年々、緩やかに実感が高くなっていますが、依然として、『実感していない層』が『実感している層』を上回っています。

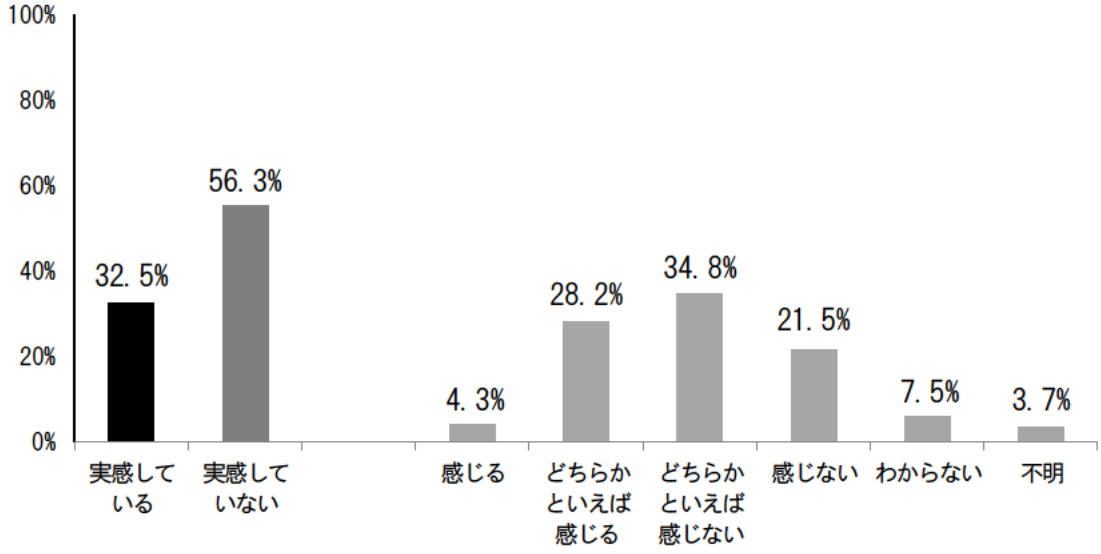
・属性別に見ると、職業を除く各属性で、第１回調査より実感が高くなっています。

・年代別に見ると、『実感している層』の割合について、20 歳代が最も低くなっており、この傾向は５回の調査を通じて変わっていません。また、20 歳代の『実感している層』の割合は、調査開始以来、年々高くなっていましたが、今回調査で初めて、前回調査の割合を下回りました。

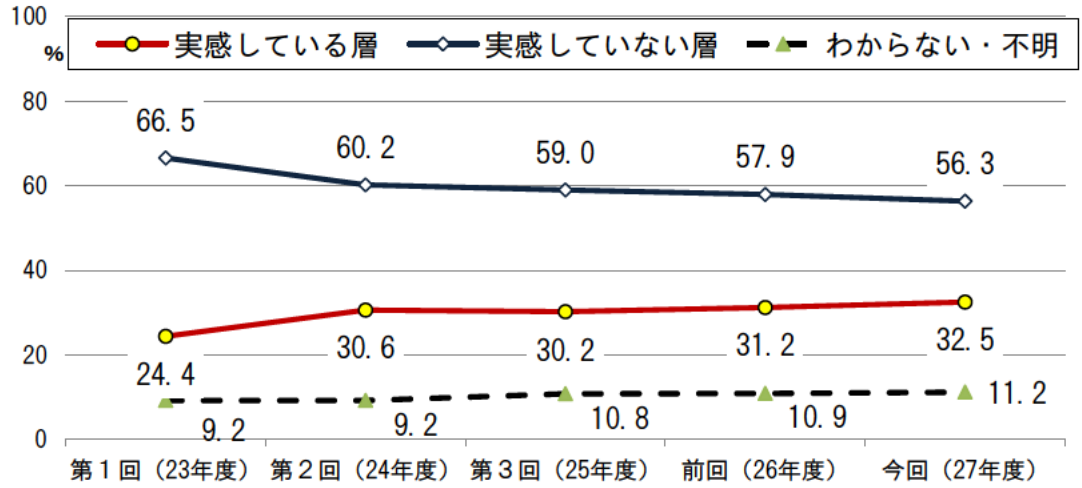
・「防災に関する県民意識調査」（平成 27 年度）によると、「時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた人の割合は、特に 20～30 歳代において高くなっており、その割合は年々増加しています。東日本大震災の発生から５年あまりが経過し、県民、とりわけ若者層の危機意識が薄れてきていることが懸念されます。

・引き続き、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を着実に進めていくとともに、学校における防災教育の充実や若者層への効果的な防災情報の提供など「防災の日常化」の定着に向けた取組を推進していく必要があると考えられます。

図表 2-2-1　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（災害の危機への備えが進んでいる）



図表 2-2-2　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（災害の危機への備えが進んでいる）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率 5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

2　必要な医療サービスが利用できている（問２－２）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-3 参照）

○　『実感している層』は 49. 0%、『実感していない層』は 40. 1%です。

○　『実感している層』が『実感していない層』より 8. 9 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	北勢、中南勢	伊賀、東紀州
性　　別		
年　　齢	20 歳代、70 歳以上	40～50 歳代
主な職業	学生、専業主婦・主夫、無職	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係		
世帯類型	三世代	
世帯収入	400～500 万円	100～200 万円、600～800 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-4 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　第２回調査時に実感が高くなって以降、実感に大きな変動はなく、第１回調査時と比較して、実感が高くなっています。
（『実感している層』：+3. 6 ポイント、『実感していない層』：−5. 0 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域		東紀州を除く各地域	伊賀、東紀州	
性　　別		全性別		
年　　齢		20～40 歳代、60 歳代		
主な職業		ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、専業主婦・主夫、無職	農林水産業	
配偶関係		未婚、有配偶		
世帯類型		一世代、二世代		
世帯収入	400～500 万円		1、000 万円～	

(3)　分析・考察

・第１回調査よりも実感は高くなっていますが、調査開始以降、『実感している層』の割合は５割弱で推移しています。

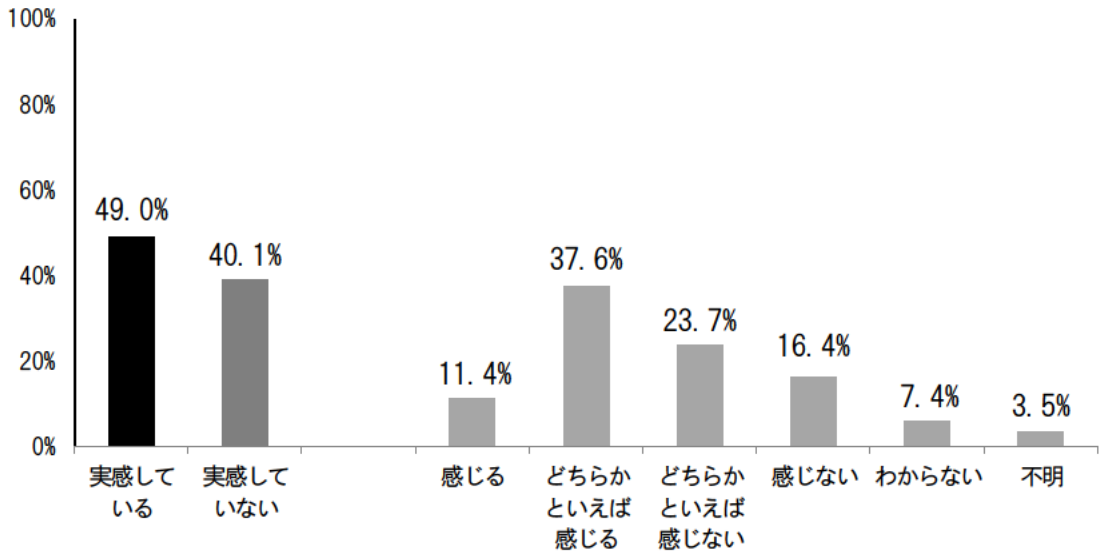
・年齢別に見ると、20 歳代、70 歳以上で実感している傾向が強く、40～50 歳代で実感している傾向が弱くなっています。厚生労働省の推計によると、「１人当たり保険料」は、年齢とともに上がっていき、45～54 歳をピークに下がっていくという結果も報告されており、医療費の保険料負担が、実感に何らかの影響を与えている可能性があります。

・地域別に見ると、北勢、中南勢で実感している傾向が強く、伊賀、東紀州で実感している傾向が弱くなっています。伊賀、東紀州は、人口 10 万人当たりの医師数が他の地域に比べて少ないという統計（地域医療情報システム地域別統計）もあり、医師数の少なさが実感の低さに影響している可能性があります。

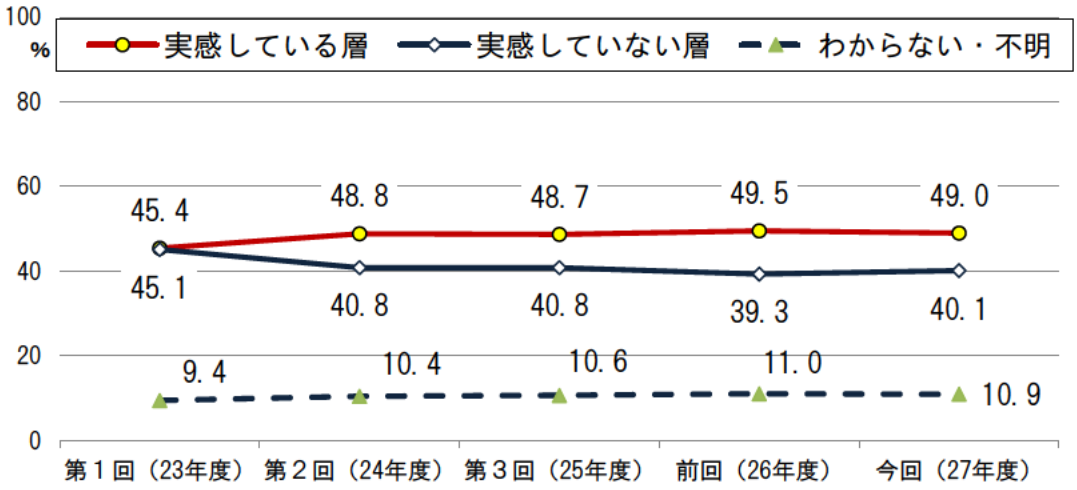
・自由記述では「伊賀と津を中勢として１つ（医療圏）に考え、伊賀の不便さを考えていない」、「東紀州地域は医師・設備が不足している」などの意見がありました。

・引き続き、医療提供体制の充実に向けて、県内の医師不足や偏在の解消などに取り組む必要があると考えられます。

図表 2-2-3　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（必要な医療サービスが利用できている）



図表 2-2-4　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（必要な医療サービスが利用できている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

３　必要な福祉サービスが利用できている（問２－３）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-5 参照）

○　『実感している層』は 29. 8%、『実感していない層』は 47. 0%です。
15 項目中、『実感している層』が３番目に低くなっています。

○　『実感していない層』が『実感している層』より 17. 2 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	伊勢志摩、東紀州	北勢、伊賀
性　　別	女性	男性
年　　齢	70 歳以上	20～50 歳代
主な職業	農林水産業、学生、専業主婦・主夫、無職	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係	離別・死別	未婚
世帯類型	三世代	
世帯収入	～100 万円	800 万円～

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-6 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が低くなり、『実感している層』の割合の減少幅は 15 の幸福実感指標の中で最も大きくなっています。
（『実感している層』：－3. 3 ポイント、『実感していない層』：＋2. 6 ポイント）

・　第１回調査以降、実感が低くなる傾向にあり、第１回調査時との比較における『実感している層』の割合の減少幅は、15 の幸福実感指標の中で最も大きくなっています。
（『実感している層』：－2. 9 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域			北勢、伊賀、中南勢	北勢、伊賀、中南勢
性　　別			全性別	全性別
年　　齢			40 歳代、60 歳～	20 歳代、50～60 歳代
主な職業		無職	農林水産業、自営･自由業、正規職員	自営･自由業、正規職員
配偶関係			有配偶、離別・死別	有配偶
世帯類型			二世代	一世代、二世代、三世代
世帯収入			100～200 万円、500～600 万円、800 万円～	

(3)　分析・考察

・前回調査よりも実感が低くなり、調査開始以来、初めて第１回調査より『実感している層』の割合を下回りました。今回調査における仕事と介護の両立に関する質問項目において、『実感していない層』は、「資金的な援助」、「介護サービス」の順で必要と答えた人が多く、平成 27 年４月から特別養護老人ホームの入居基準が変更されたことや同年８月から介護保険の費用負担が増加したことが、実感の低下に影響している可能性があります。

・年齢別に見ると、介護サービスの受け手として想定される 70 歳以上で、実感している傾向が強く、その支え手として期待される 20～50 歳代で、実感している傾向が弱くなっており、この傾向は、５回の調査を通じて変わっていません。

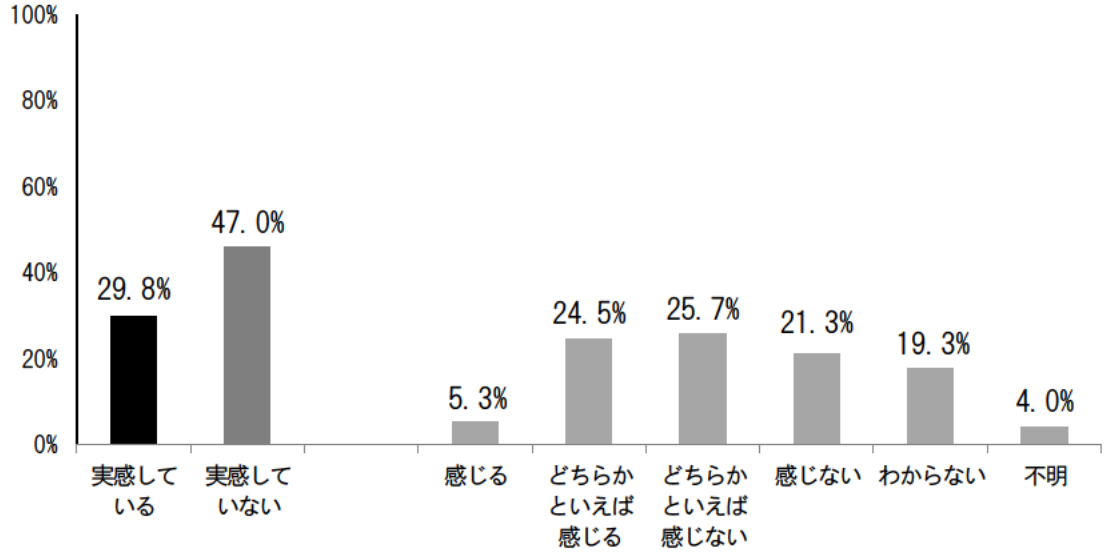
・今回調査における家族に関する質問項目で「介護が必要な家族がいる」と回答した人は、「介護が必要な家族がいない」と回答した人と比べて実感が高くなっており、県全体の割合も上回っています(※)。また、地域別に見ると、「介護が必要な家族がいる」と回答した人の割合が相対的に低い、北勢、伊賀において、実感している傾向が弱くなっています。

・引き続き、福祉サービスの充実に向けて、介護基盤の整備やサービスの質の向上に取り組む必要があると考えられます。

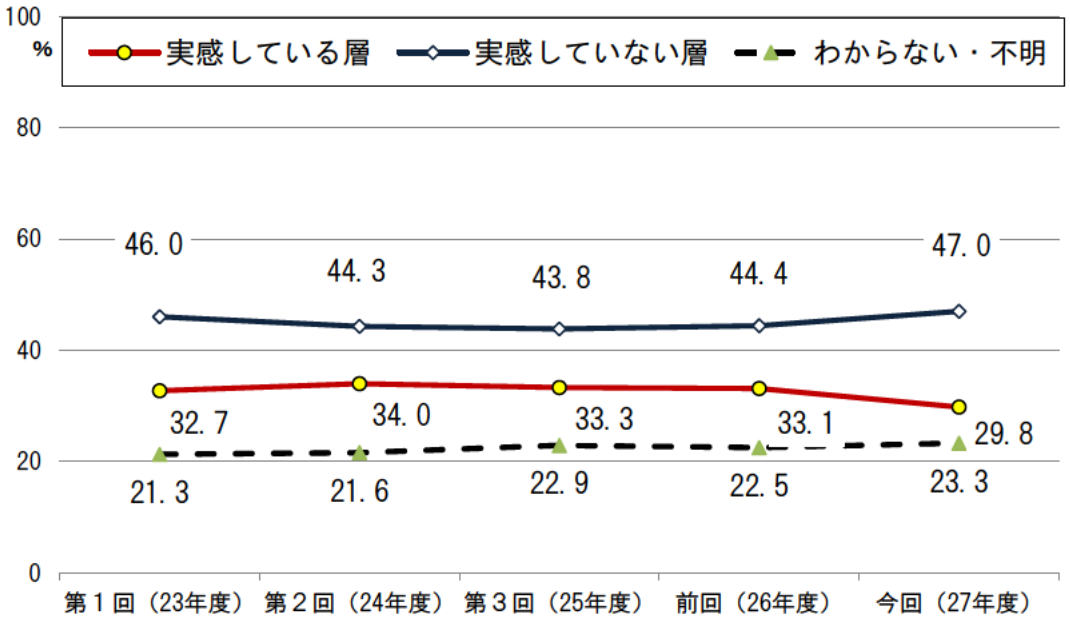
(※) 介護が必要な家族がいる(実感:44. 0%、非実感:41. 5%)、介護が必要な家族がいない(実感:26. 3%、非実感:48. 6%)

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P76≫

図表 2-2-5　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（必要な福祉サービスが利用できている）



図表 2-2-6　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（必要な福祉サービスが利用できている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率 5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

４　犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている（問２－４）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-7 参照）

○　『実感している層』は 60. 2%、『実感していない層』は 33. 0%です。
15 項目中、『実感している層』が３番目に高くなっています。
15 項目中、『実感していない層』が３番目に低くなっています。

○　『実感している層』が『実感していない層』より 27. 2 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	伊賀、伊勢志摩、東紀州	北勢
性　　別		
年　　齢	60 歳～	30～40 歳代
主な職業	自営業・自由業、専業主婦・主夫	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係		
世帯類型	三世代	
世帯収入	300～400 万円	～200 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-8 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が低くなり、『実感している層』の割合の減少幅は 15 の幸福実感指標の中で２番目に大きくなっています。
（『実感している層』：－2. 6 ポイント、『実感していない層』：＋1. 6 ポイント）

・　第１回調査以降、前回調査までは実感が高くなる傾向にあったことから、第１回調査時と比較して、実感が高くなっています。
（『実感していない層』：－3. 4 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域		北勢、伊賀、伊勢志摩	中南勢、伊勢志摩	
性　　別		女性	男性	
年　　齢		40～60 歳代	40 歳代	
主な職業		自営業・自由業、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、専業主婦・主夫、無職	農林水産業、正規職員	
配偶関係		有配偶、離別・死別	有配偶	
世帯類型		二世代、三世代	一世代、二世代	
世帯収入			100～200 万円、600～800 万円、1,000 万円～	

(3)　分析・考察

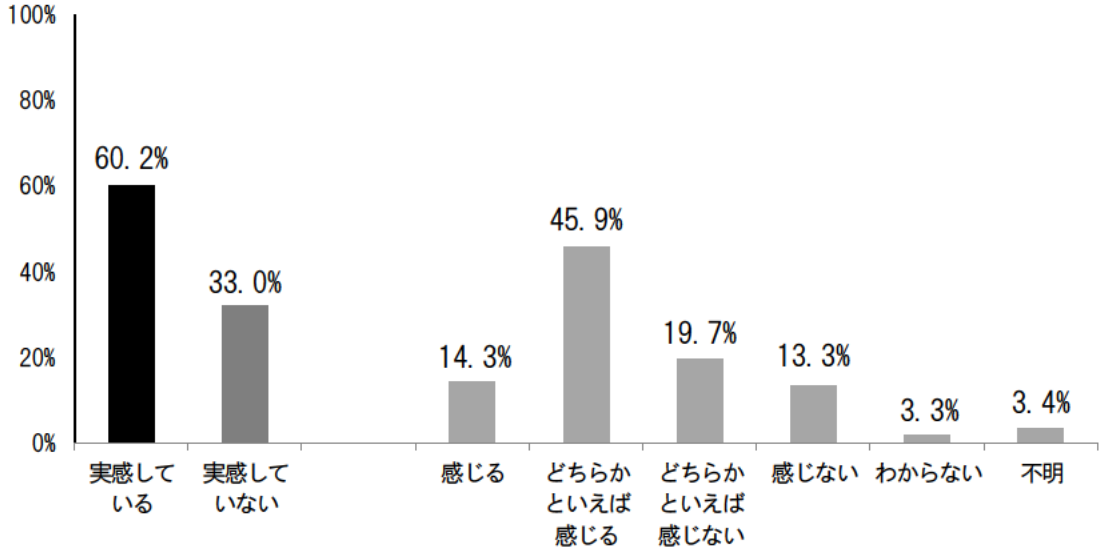
・調査開始以来、初めて前回調査の実感を下回りました。三重県警察本部の統計によると、平成 27 年中における刑法犯認知件数は、平成になってから最少を記録するなど、犯罪情勢には一定の改善が見られる一方で、県内で社会の耳目を集める殺人事件等が発生したことや、六代目山口組分裂に伴う対立抗争事件発生への懸念などが、実感の低下に影響している可能性があります。

・地域別に見ると、中南勢、伊勢志摩で、前回調査より実感が低くなっています。伊勢志摩サミットの開催に伴うテロの脅威に対する不安が、実感の低下に影響している可能性があります。

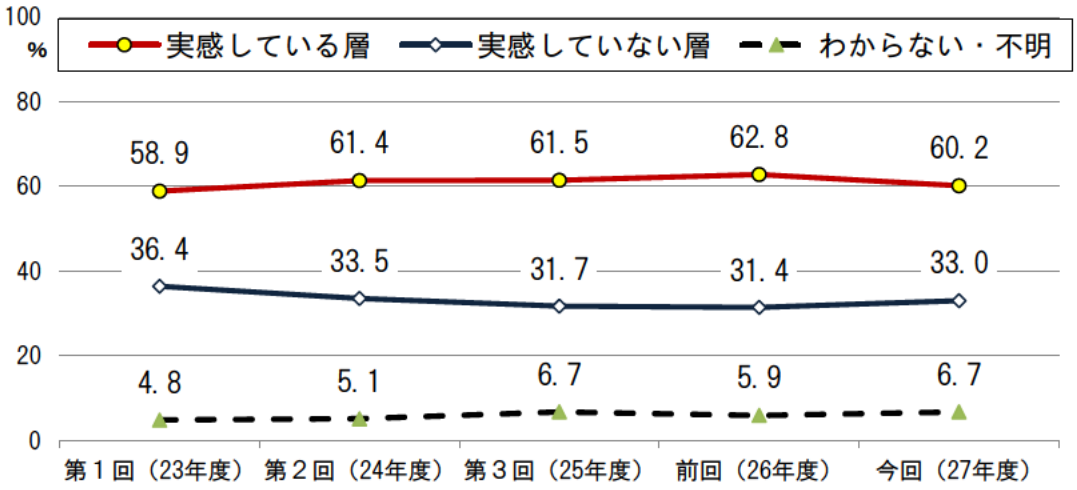
・自由記述では、「サミットに関してはテロ行為等の危険性が大きいと感じる」、「サミットが開催されるので、テロが心配」といった意見がありました。（伊勢志摩サミット警備については、県民の皆様のご理解とご協力により、無事終了することができました。）

・引き続き、犯罪被害に遭いにくい生活環境の確保に向け、さまざまな主体と連携した犯罪抑止活動や発生した犯罪の徹底検挙に取り組む必要があると考えられます。

図表 2-2-7　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている）



図表 2-2-8　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

５　身近な自然や環境が守られている（問２－５）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-9 参照）

○　『実感している層』は 47. 9%、『実感していない層』は 41. 9%です。

○　『実感している層』が『実感していない層』の割合より 6. 0 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	伊賀、伊勢志摩、東紀州	北勢
性　　別	女性	男性
年　　齢	70 歳～	
主な職業	専業主婦・主夫、無職	正規職員
配偶関係		未婚
世帯類型		
世帯収入	800 万円～	～100 万円

(2)　分析・考察

・地域別に見ると、伊賀、伊勢志摩、東紀州で実感している傾向が強く、北勢で実感している傾向が弱くなっています。自由記述では「自然も豊かであり、人もとても心が優しい人達だと感じている」、「自然も豊かで、おいしいものもたくさんあり、大好き」、「自然が豊かなのでそれを残しつつ若者の働く場所を確保して欲しい」などの意見がありました。

・職業別で見ると、専業主婦・主夫で実感している傾向が強く、正規職員で実感している傾向が弱くなっています。

・世帯収入別に見ると、800 万円以上で実感している傾向が強く、100 万円未満で実感している傾向が弱くなっています。また、800 万円以上と 100 万円未満で比較すると、『実感している層』の差は 10 ポイント以上ある一方、『実感していない層』の差は２ポイント程度となっています。

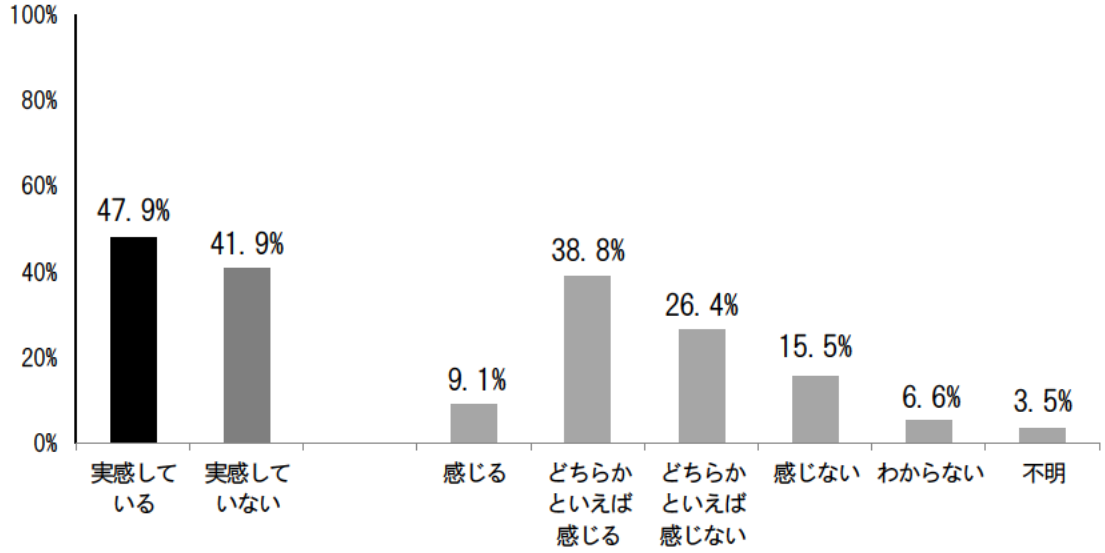
・今回調査における住まいの愛着に関する質問項目で「自然環境に恵まれている」と回答した人はそれ以外の回答をした人と比べて実感が高くなっています（※）。

・引き続き、優れた自然環境の保全に向けて、自然公園や自然環境保全地域等の適正な管理などに取り組んでいく必要があると考えられます。

（※）自然環境に恵まれている（実感:56. 6%、非実感:35. 5%）、それ以外（実感:40. 9%、非実感:47. 7%）

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P90≫

図表 2-2-9　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（身近な自然や環境が守られている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

６　性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている（問２－６）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-10 参照）

○　『実感している層』は 25. 8%、『実感していない層』は 55. 5%です。
　15 項目中、『実感している層』が２番目に低くなっています。
　15 項目中、『実感していない層』の割合が３番目に高くなっています。

○　『実感していない層』が『実感している層』より 29. 7 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	東紀州	
性　　別		
年　　齢	70 歳～	30 歳代、50 歳代
主な職業	農林水産業、学生、専業主婦・主夫、無職	自営業・自由業、正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係	離別・死別	
世帯類型	単独	二世代
世帯収入	～200 万円	600 万円～

(2)　分析・考察

・属性別に見ると、東紀州、70 歳以上、農林水産業で実感している傾向が強く、50 歳代、自営業自由業、世帯収入 1, 000 万円以上で実感している傾向が弱くなっています。

・今回調査における、人権の尊重に関する質問項目、女性の社会参画に関する質問項目及び外国人との共生に関する質問項目において『実感している層』は、『実感していない層』と比べて、いずれも実感が高くなっています(※)。

・自由記述では、「女性活躍は思うほど進んでない」、「障がい者が、就労できる環境の整備をお願いします」、「外国人とはやはり考えは違うと思う」、「同性パートナーとの同居を理由にアパートを借りる事を拒否された」といった意見がありました。

・引き続き、同和問題、女性、障がい者、高齢者、外国人等の人権や共生に関する課題の解決に向けて取り組むとともに、近年顕在化している性的マイノリティに関する課題への対応が必要であると考えられます。

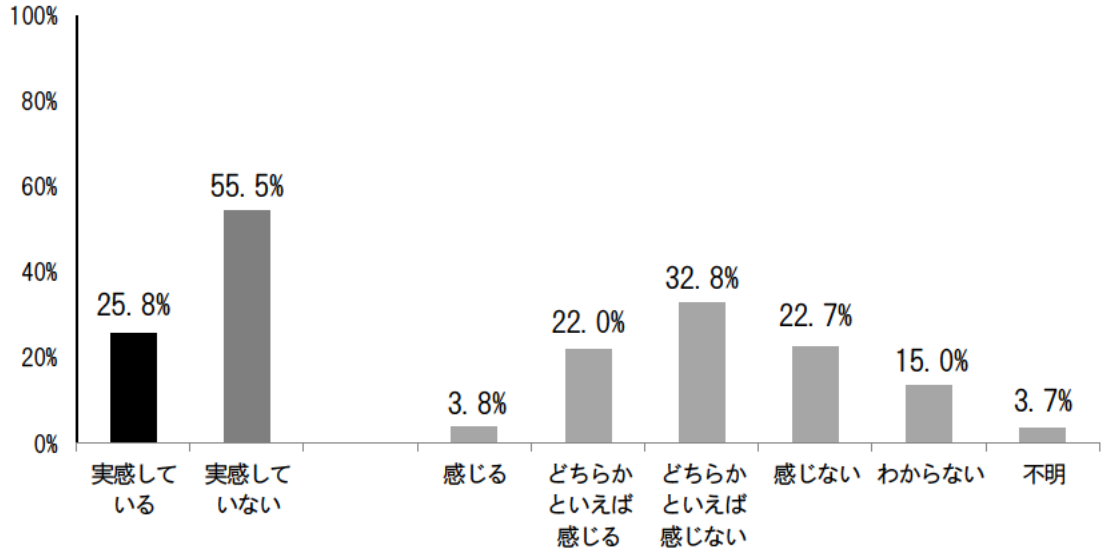
(※) 人権の尊重：実感している層(実感:41. 7%、非実感:43. 9%)、実感していない層(実感:11. 8%、非実感:77. 1%)
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P48≫

女性の社会参画：実感している層(実感:38. 5%、非実感:45. 7%)、実感していない層(実感:15. 9%、非実感:71. 6%)
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P50≫

外国人との共生：実感している層(実感:41. 9%、非実感:45. 0%)、実感していない層(実感:16. 4%、非実感:71. 9%)
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P52≫

図表 2-2-10　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）

（性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率 5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

7　子どものためになる教育が行われている（問２－７）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-11 参照）

○　『実感している層』は 33. 5%、『実感していない層』は 45. 0%です。

○　『実感していない層』が『実感している層』よりも 11. 5 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域		
性　　別	女性	男性
年　　齢	40 歳代、70 歳～	20 歳代、50 歳代
主な職業	専業主婦・主夫、無職	自営業・自由業、正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係	有配偶、離別・死別	未婚
世帯類型	三世代	単独
世帯収入	600～800 万円	～100 万円、600～800 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-12 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が高くなり、『実感している層』の割合の増加幅は 15 の幸福実感指標の中で２番目に大きくなっています。
（『実感している層』：＋2. 1 ポイント）

・　第１回調査以降、実感が高くなる傾向にあり、第１回調査時と比較して、実感が高くなっています。
（『実感している層』：＋5. 8 ポイント、『実感していない層』：－4. 9 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域	伊賀、伊勢志摩	東紀州を除く各地域	中南勢	
性　　別	女性	全性別		
年　　齢	60 歳代	40 歳～		
主な職業	正規職員、専業主婦・主夫、無職	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、専業主婦・主夫、無職	農林水産業	
配偶関係	未婚	全配偶関係		
世帯類型	一世代	単独、一世代、二世代		
世帯収入	100～200 万円、400～500 万円			

(3)　分析・考察

・第１回調査開始以来、『実感していない層』が『実感している層』を上回っています。

・属性別に見ると、女性、専業主婦・主夫、三世代世帯など、子育てに関わる機会が多いと想定される層で、実感している傾向が強くなっている一方で、男性、20 歳代、未婚、単独世帯など、子育てに関わる機会が少ないと想定される層で、実感している傾向が弱くなっています。

・子どものいる層の意識を比較したところ、子どもの年齢（末子）が未就学相当、小学生相当、中学生相当、高校生相当のいずれにおいても、県全体より実感が高くなっています（※）。

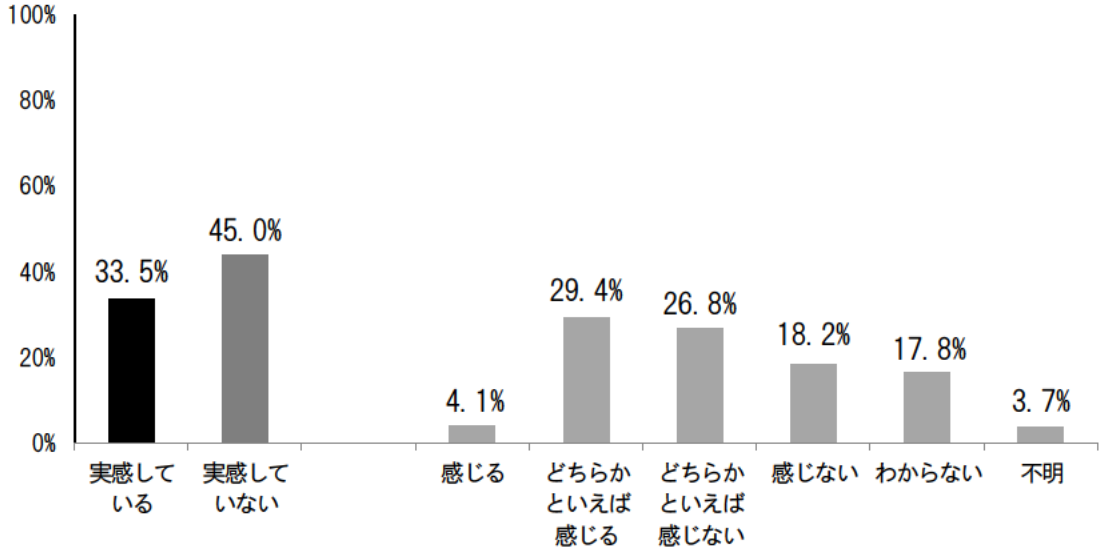
・自由記述では、「高い教育の受け皿が少ない」、「子供の教育資金がかかりすぎている。私学援助をして頂きたい」、「就学前教育が大変遅れていると感じた」などの意見があります。

・引き続き、教育環境の整備・充実に向け、幼児教育の振興や高等教育機関の魅力向上などに取り組んでいく必要があると考えられます。

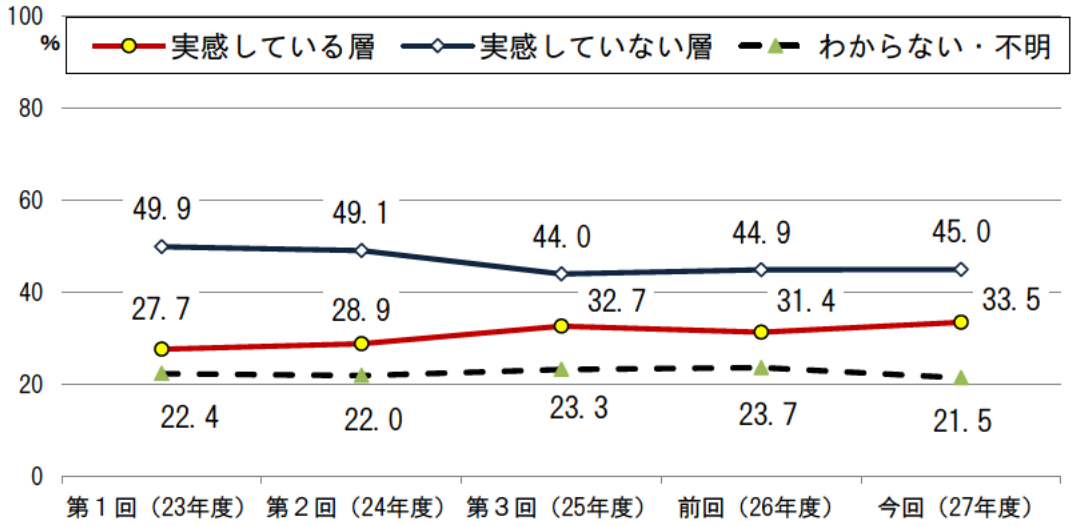
（※）未就学相当（0～6 歳）（実感:43. 7%、非実感:46. 4%）、小学生相当（7～12 歳）（実感:47. 4%、非実感:46. 1%）、
中学生相当（13～15 歳）（実感:40. 6%、非実感 47. 5%）、高校生相当（16～18 歳）（実感:35. 4%、非実感:53. 3%）

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P72≫

図表 2-2-11　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（子どものためになる教育が行われている）



図表 2-2-12　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（子どものためになる教育が行われている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

８　結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている（問２－８）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-13 参照）

○　『実感している層』は 43. 3%、『実感していない層』は 39. 5%です。

○　『実感している層』が『実感していない層』よりも 3. 8 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域		伊賀
性　　別	女性	男性
年　　齢	30～40 歳代、70 歳～	20 歳代、50～60 歳代
主な職業	専業主婦・主夫	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、無職
配偶関係	有配偶	未婚
世帯類型		単独
世帯収入	500～800 万円、1, 000 万円～	～300 万円

(2)　分析・考察

・属性別に見ると、女性、30～40 歳代、専業主婦・主夫、世帯収入 1, 000 万円以上など、子育てに専念できる環境にあると想定される層で、実感している傾向が強くなっている一方で、男性、20 歳代、未婚、単独世帯など、子育てに関わる機会が少ないと想定される層で、実感している傾向が弱くなっています。

・子どものいる層の意識を比較したところ、子どもの年齢（末子）が未就学相当、小学生相当、中学生相当、高校生相当のいずれにおいても、県全体より実感が高くなっています。また、子どもの成長に応じて、実感が低くなる傾向が見受けられます(※1）。

・今回調査の子どもの数の理想と現実のギャップに関する質問項目において、ギャップがない層は、ギャップのある層より実感が高く、県全体の実感も上回っています(※2）。

・自由記述では、「正社員になれず派遣だと結婚も出来ない」、「不妊治療などの資金的な援助を充実してほしい」、「子育てしながら仕事をしやすい環境が整っていない」、「もっと３人目以上いる家族を優遇すべき」といった意見があります。

・引き続き、「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、すべての子どもが豊かに育つことのできる三重」をめざし、非正規雇用から正規雇用に向けたキャリアアップ支援、不妊に悩む夫婦に対する総合的な経済的支援、子育てをしながら働き続けることのできる保育環境の整備や働き方改革などの取組に加え、多子世帯に対する支援などの少子化対策を総合的に推進していく必要があると考えられます。

(※1）未就学相当(0～6 歳)(実感:71. 0%、非実感:22. 6%)、小学生相当（7～12 歳）(実感:62. 0%、非実感:30. 2%)、
中学生相当(13～15 歳)(実感:56. 3%、非実感 33. 8%)、高校生相当(16～18 歳）(実感:50. 9%、非実感:38. 2%)

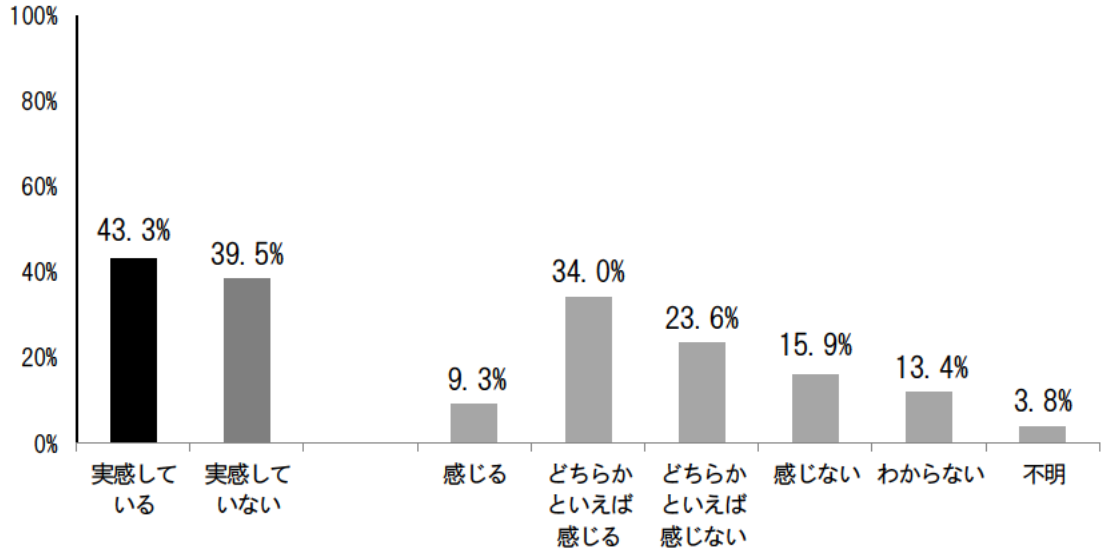
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P72≫

(※2）ギャップのある層(実感:53. 0%、非実感:35. 6%)、ギャップのない層(実感:41. 0%、非実感:42. 8%)

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P72≫

図表 2-2-13　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）

（結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率 5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

９　スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境が整っている（問２－９）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-14 参照）

○　『実感している層』は 41. 3%、『実感していない層』は 41. 6%です。

○　『実感していない層』が『実感している層』より 0. 3 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	北勢	伊賀、中南勢、東紀州
性　　別	女性	男性
年　　齢	70 歳～	30 歳代、50 歳代
主な職業	専業主婦・主夫、無職	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係		未婚
世帯類型		
世帯収入	800～1, 000 万円	100～200 万円、500～600 万円

(2)　分析・考察

・属性別に見ると、70 歳以上、専業主婦・主夫、世帯収入 800 万～1, 000 万円など、経済的余裕も時間的ゆとりもあると想定されるシルバー層で、実感している傾向が強くなっている一方で、男性、30 歳代、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業、100～200 万円など、比較的に低い賃金で長時間、職場に拘束されていると想定される中年層で、実感している傾向が弱くなっています。

・今回調査における運動やスポーツに関する質問項目において、運動をする頻度について「週に１回以上」と回答した層は、「週に１回未満」と回答した層より、実感が高く、県全体の実感も上回っています(※)。

・自由記述では、「休みの日に家族で出かけて、楽しめるスポーツやリクエーションの場をもっと作って欲しい」、「産業・スポーツなど、県民が魅力を感じる、住み続けたくなる県政を望む」、「東京パラリンピック出場をめざす選手支援を検討してほしい」といった意見があります。

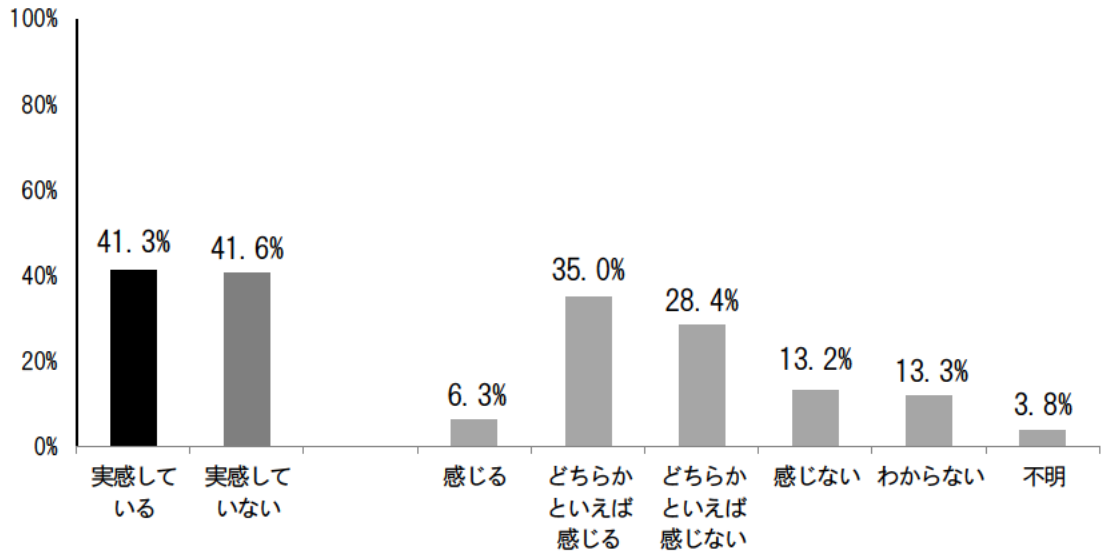
・引き続き、県民の皆さんがスポーツに親しむための環境整備に向けて、スポーツに対する県民の皆さんの機運醸成やスポーツを支える人材育成などの取組に加え、余暇の充実に積極的に取り組めるよう「ワーク・ライフ・バランス」を推進する必要があると考えられます。また、本県アスリートの活躍により県民の皆さんに夢や感動を与えるために、本県の競技スポーツ水準の向上にも取り組んでいく必要があると考えられます。

(※) 週に１回以上運動している(実感:47. 1%、非実感:39. 0%)、運動していない(実感:36. 2%、非実感:45. 0%)

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P56≫

図表 2-2-14　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）

（スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境が整っている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率 5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

１０　自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい（問２－１０）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-15 参照）

○　『実感している層』は 73. 1%、『実感していない層』は 18. 6%です。
15 項目中、『実感している層』の割合が 2 番目に高くなっています。
15 項目中、『実感していない層』の割合が 2 番目に低くなっています。

○　『実感している層』が『実感していない層』よりも 54. 5 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	伊勢志摩	伊賀
性　　別	男性	
年　　齢	70 歳～	40～50 歳代
主な職業	自営業・自由業、学生	ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣
配偶関係		
世帯類型		単独
世帯収入	400～500 万円、1, 000 万円～	～100 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-16 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　第１回調査以降、『実感している層』の割合は高い水準で安定的に推移しています。

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域	北勢、伊勢志摩			
性　　別		女性		
年　　齢		30 歳代		
主な職業	その他職業	専業主婦・主夫		農林水産業
配偶関係		有配偶		
世帯類型		一世代、二世代		三世代
世帯収入	400～500 万円			

(3)　分析・考察

・第１回調査以来、『実感している層』が７割以上で、『実感していない層』が２割未満で推移しており、その傾向にあまり変化は見られません。

・属性別に見ると、すべての属性で実感している割合が６割以上となっています。

・今回調査における地域活動への参加に関する質問項目及び地域の住みやすさに関する質問項目において、「肯定的回答」をしている層は、「否定的回答」をしている層より実感が高く、県全体の実感も上回っています。また、地域の住みやすさに関する質問項目に「否定的回答」をしている層については、実感していない割合が、実感している割合より高くなっています(※)。

・自由記述では、「地方は仕事が少なく、若い人が残らない。もっと地方を活性してほしい」、「地域の活性化のために、いろんな年代や職種の人が参加できる取組みをしてはどうか」、「ますます進んでいると思われる県内の南北格差を縮めてほしい」といった意見があります。

・引き続き、県と市町が連携し、地域の魅力や価値をより一層高めていく取組を行うとともに、県民の皆さんとさまざまな人や団体とのつながり・ネットワークの形成を進めていく必要があると考えられます。また、南部地域等の条件不利地域の振興にも取り組んでいく必要があると考えられます。

(※) 地域活動：肯定的回答(実感:81. 0%、非実感:12. 2%)、否定的回答(実感:71. 4%、非実感:20. 3%)

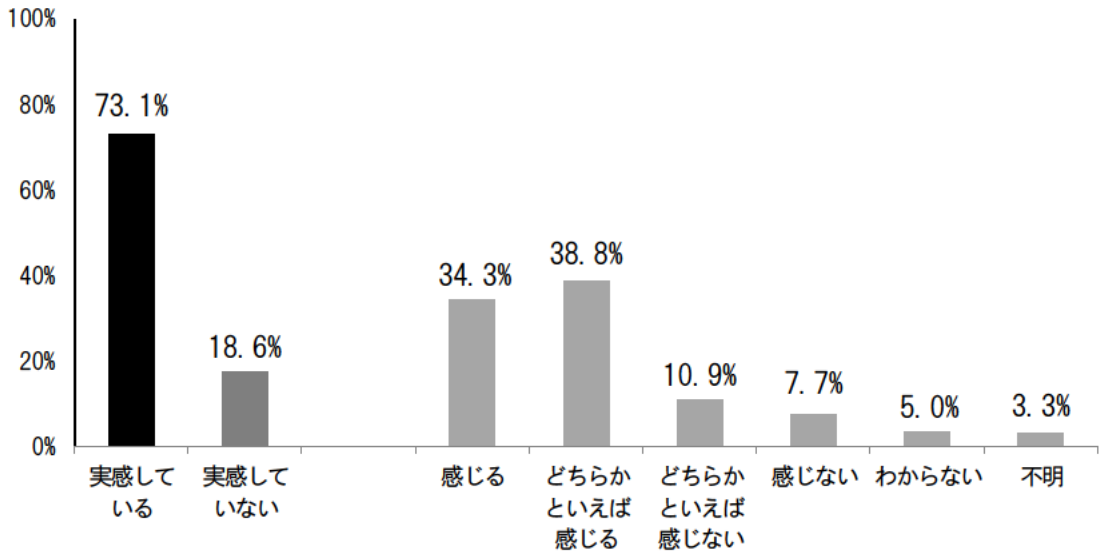
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P58≫

住みやすさ：肯定的回答(実感:81. 1%、非実感:11. 6%)、否定的回答(実感:31. 0%、非実感:59. 5%)

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P88≫

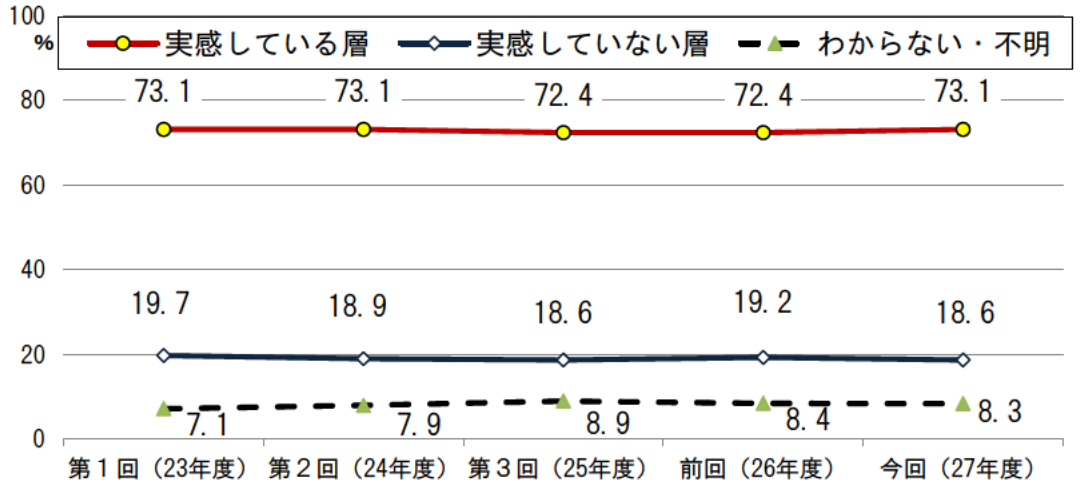
図表 2-2-15　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）

（自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい）



図表 2-2-16　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）

（自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

１１　三重県産の農林水産物を買いたい（問２－１１）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-17 参照）

○　『実感している層』は 85. 5%、『実感していない層』は 8. 0%です。
15 項目中、『実感している層』の割合が最も高くなっています。
15 項目中、『実感していない層』の割合が最も低くなっています。

○　『実感している層』が『実感していない層』より 77. 5 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	中南勢、伊勢志摩	北勢
性　　別	女性	男性
年　　齢	40～50 歳代	20 歳代
主な職業	自営業・自由業、学生、専業主婦・主夫	正規職員、その他の職業、無職
配偶関係	有配偶	未婚、離別・死別
世帯類型		単独
世帯収入	500 万円～	～100 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-18 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　第１回調査以降、実感が低くなる傾向にあり、第１回調査時との比較における『実感している層』の割合の減少幅は 15 の幸福実感指標の中で２番目に大きくなっています。
（『実感している層』：－1. 9 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域	東紀州	中南勢		北勢、伊勢志摩
性　　別	女性			全性別
年　　齢	50 歳代			20 歳代
主な職業	自営業・自由業、学生、専業主婦・主夫			正規職員、無職
配偶関係	有配偶			未婚、有配偶
世帯類型				一世代、二世代
世帯収入	1, 000 万円～			

(3)　分析・考察

・第１回調査から継続して実感している層が８割以上、実感していない層が１割未満で、15 項目中で実感している割合が最も高く、実感していない割合が最も低くなっています。

・第１回調査以降、低下し続けていた『実感している層』の割合が、今回調査で初めて上昇に転じています。

・属性別に見ると、学生、世帯収入 100 万円未満を除き、各属性で『実感している層』の割合が８割以上となっています。

・ｅ－モニターによる県産品に対する消費者満足度に関する調査によると、「満足」もしくは「どちらかといえば満足」と回答した県内消費者の割合については、平成 23 年度以降、上昇を続けています。

・今回調査における県産農産物の魅力に関する質問項目において、魅力ある県産農林水産物や加工品が販売されていると「実感している層」は、「実感していない層」に比べて実感が高く、県全体の実感も上回っています（※）。

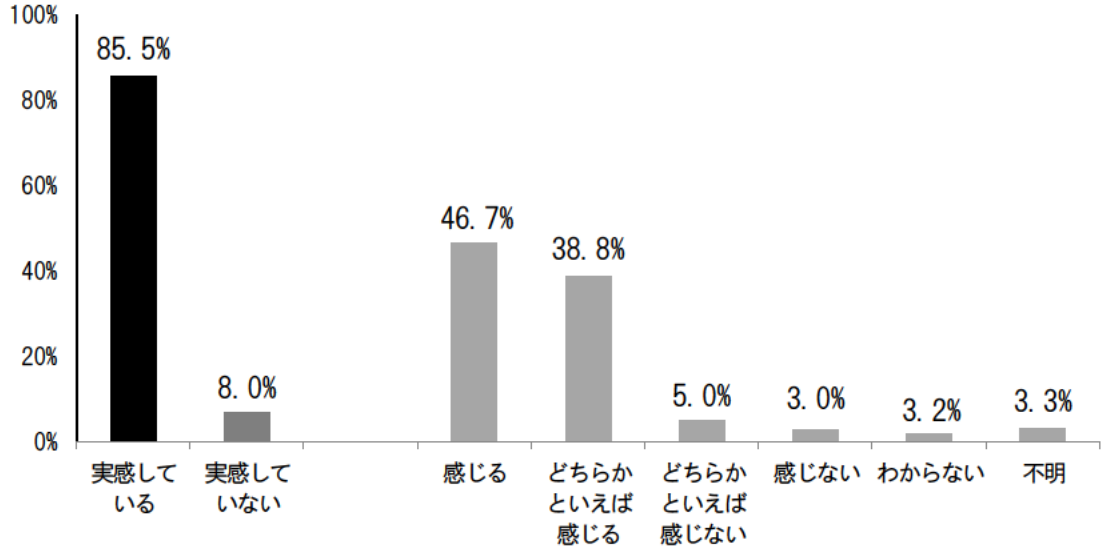
・自由記述では、「伊勢志摩サミットで三重の知名度が上がり、様々な特産品をアピールしてほしい」、「三重の産品が身近に購入できるといい」などの意見があります。

・伊勢志摩サミット開催のレガシー等を生かし、引き続き、三重県産農林水産物の魅力発信や「みえ地物一番」などによる地産地消の促進等に取り組む必要があると考えられます。

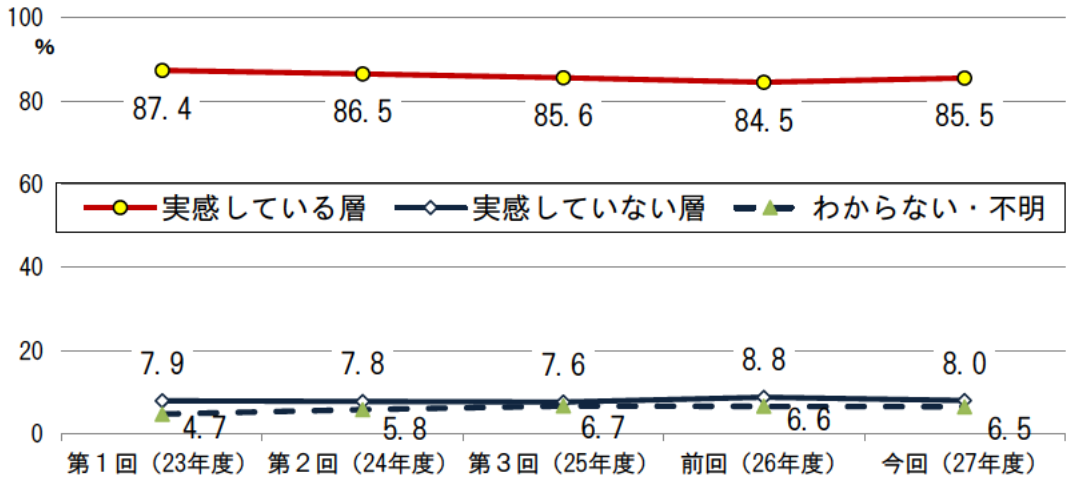
（※）実感している層(実感:94. 2%、非実感:2. 4%)、実感していない層(実感:79. 4%、非実感:14. 3%

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P60≫

図表 2-2-17　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（三重県産の農林水産物を買いたい）



図表 2-2-18　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（三重県産の農林水産物を買いたい）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

１２　県内の産業活動が活発である（問２－１２）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-19 参照）

○　『実感している層』は 33. 9%、『実感していない層』は 45. 1%です。

○　『実感していない層』が『実感している層』よりも 11. 2 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	北勢	中南勢、伊勢志摩、東紀州
性　　別	女性	男性
年　　齢	20～40 歳代、70 歳～	50～60 歳代
主な職業	専業主婦・主夫	自営業・自由業、正規職員、無職
配偶関係		
世帯類型	二世代	
世帯収入	～200 万円、500～600 万円、800 万円～	200～300 万円、600～800 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-20 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が高くなり、『実感している層』の割合の増加幅は 15 の幸福実感指標の中で３番目に大きくなっています。
（『実感している層』：＋1. 5 ポイント、『実感していない層』：－2. 8 ポイント）

・　第１回調査以降、実感が高くなる傾向にあり、第１回調査時との比較における『実感している層』の割合の増加幅は 15 の幸福実感指標の中で３番目に大きくなっています。
（『実感している層』：＋6. 1 ポイント、『実感していない層』：－9. 0 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域	伊賀、伊勢志摩、東紀州	全地域		
性　　別	女性	全性別		
年　　齢	20～50 歳代	全年齢層		
主な職業	ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業	農林水産業を除く各職業		
配偶関係	未婚、有配偶	全配偶関係		
世帯類型	二世代	全世帯類型		
世帯収入	～200 万円、300～400 万円、800～1, 000 万円			

(3)　分析・考察

・第１回調査よりも実感が高くなっていますが、調査開始以来、『実感していない層』が『実感している層』を上回っています。

・属性別に見ると、農林水産業を除く各属性で、第１回調査より実感が高くなっています。

・地域別に見ると、東紀州については他の地域と比べて実感が低くなっており、この傾向は５回の調査を通じて変わっていません。

・三重県の実質県内総生産（三重県県民経済計算）と実質現金給与総額（毎月勤労統計調査地方調査）は、ともに平成 23 年度から 25 年度にかけて増加し、平成 26 年度に減少に転じていますが、これらの推移は、第１回調査（平成 23 年度）から前回調査（平成 26 年度）における『実感している層』の割合の推移に傾向的に符合しており、何らかの関連がある可能性があります。

・今回調査における将来の望ましい社会に関する質問項目において、「さまざまな産業が発展する中で働ける」と回答した層は、回答してない層に比べて、『実感していない層』の割合が高くなっており、県全体の割合も上回っています（※）。

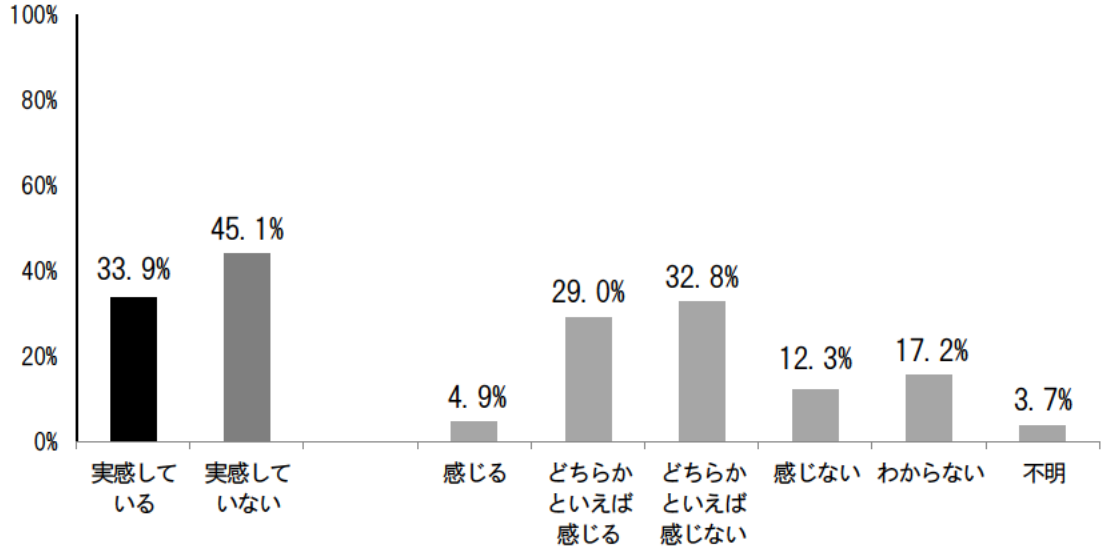
・自由記述では「県内で就業出来るように企業の誘致をお願いしたい」、「産業の育成に力を入れてほしい」などの意見がありました。

・引き続き、県内の経済活性化や雇用創出に向けて、企業誘致や産業振興などに取り組んでいく必要があると考えられます。

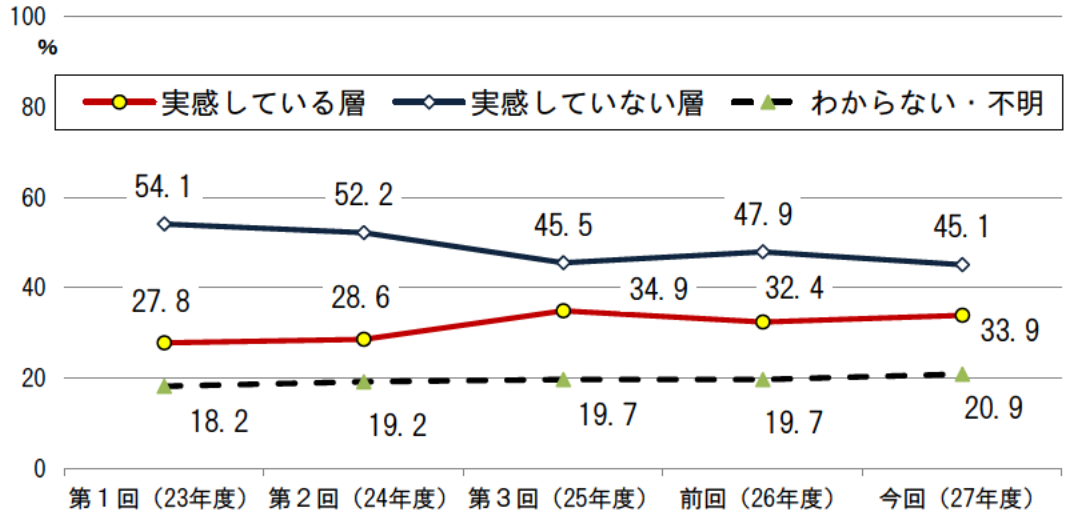
（※）回答している層(実感:34. 3%、非実感:50. 8%)、回答していない層(実感:33. 9%、非実感:44. 2%)

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P80≫

図表 2-2-19　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（県内の産業活動が活発である）



図表 2-2-20　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（県内の産業活動が活発である）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

１３　国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる（問２－１３）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-21 参照）

○　『実感している層』は 33. 5%、『実感していない層』は 47. 0%です。

○　『実感していない層』が『実感している層』よりも 13. 5 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	伊勢志摩	
性　　別	女性	男性
年　　齢	20～40 歳代、70 歳～	50～60 歳代
主な職業	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、学生	農林水産業、正規職員、無職
配偶関係	未婚	離別・死別
世帯類型	二世代	単独
世帯収入	100～200 万円、600～1, 000 万円	～200 万円、500～600 万円、1, 000 万円～

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-22 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が高くなり、『実感している層』の割合の増加幅は 15 の幸福実感指標の中で最も大きくなっています。

（『実感している層』：＋5. 2 ポイント、『実感していない層』：－5. 1 ポイント）

・　第１回調査以降、実感が高くなる傾向にあり、第１回調査時との比較における『実感している層』の割合の増加幅は 15 の幸福実感指標の中で最も大きくなっています。

（『実感している層』：＋16. 2 ポイント、『実感していない層』：－17. 2 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域	全地域	全地域		
性　　別	全性別	全性別		
年　　齢	70 歳以上を除く各年齢層	全年齢層		
主な職業	正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業、学生、専業主婦・主夫	農林水産業を除く各職業		
配偶関係	未婚、有配偶	全配偶関係		
世帯類型	二世代、三世代	全世帯類型		
世帯収入	300～1, 000 万円			

(3)　分析・考察

・実感している層の割合は５回の調査を通じて最も高くなっていますが、依然として、『実感していない層』が『実感している層』を上回る状況が続いています。

・属性別に見ると、農林水産業を除く各属性で、第１回調査より実感が高くなっています。特に学生については、実感している層が、前回調査から 34. 6 ポイント、第１回調査から 38. 8 ポイントも高くなっています。

・伊勢志摩サミットの開催が決定し、国内外からの注目が集まり、メディア等に三重県が取り上げられる機会が増えたことや、その期待感などから、実感が高くなったものと考えられます。

・今回調査における伊勢志摩サミットに期待することに関する質問項目において、「伊勢志摩地域・三重県の知名度向上」、「伊勢志摩産品・三重県産品のＰＲ、ブランド力の向上」と回答した層は、回答してない層に比べて、『実感している層』の割合が高くなっており、県全体の割合も上回っています（※1）。また、県の情報発信に関する質問項目において、得たいと思う県の情報が得られていると「感じている層」は、「感じていない層」に比べて、『実感している層』の割合が高くなっており、県全体の割合も上回っています（※2）。

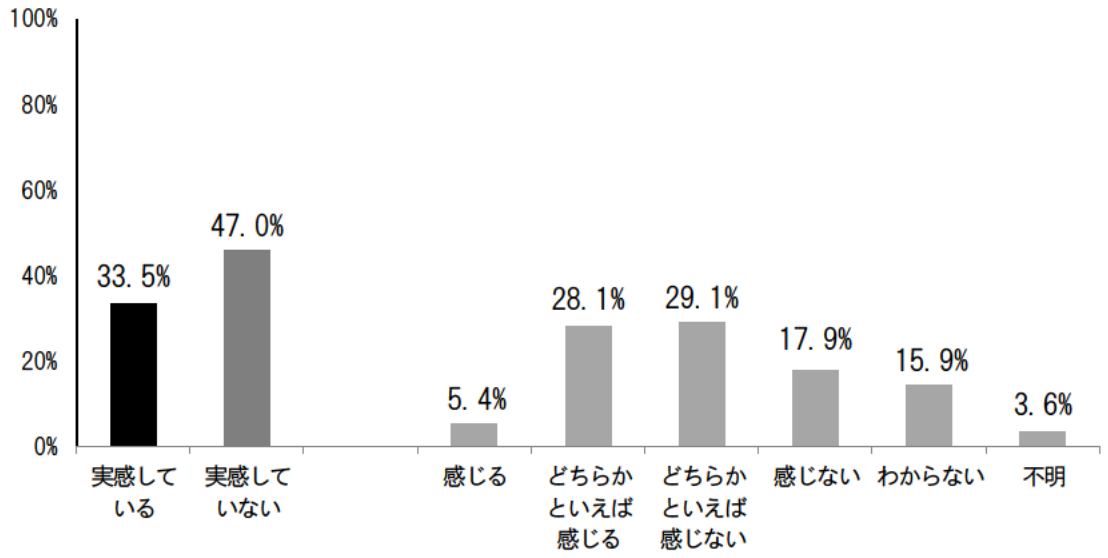
・サミットのレガシー等を生かして、引き続き、国内外に向けた戦略的な情報発信等を進めるとともに、三重県の大きな魅力のひとつである「食」を軸に、三重の認知度向上に向けた取組を推進していく必要があると考えられます。

（※1）知名度向上：回答している層(実感:36. 9%、非実感:45. 7%)、回答していない層(実感:27. 3%、非実感:49. 4%)
ブランド力向上：回答している層(実感:40. 4%、非実感:43. 7%)、回答していない層(実感：28. 2%、非実感:49. 6%)
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P94≫

（※2）県の情報発信：感じている層(実感:51. 9%、非実感:33. 2%)、感じていない層(実感:25. 0%、非実感:59. 4%)
≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P62≫

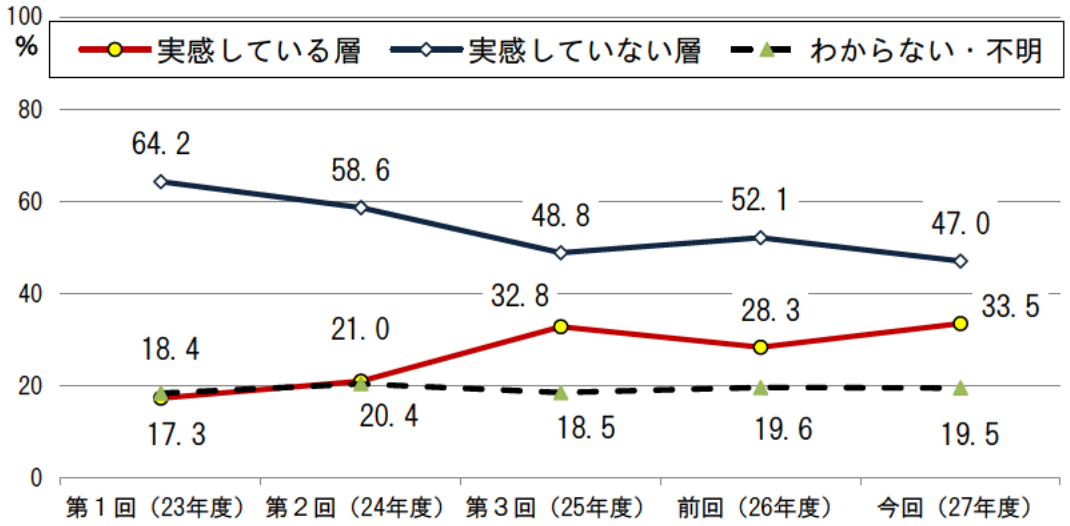
図表 2-2-21　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）

（国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる）



図表 2-2-22　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）

（国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率 5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

１４　働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている（問２－１４）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-23 参照）

○　『実感している層』は 18.5%、『実感していない層』は 65.5%です。
15 項目中、『実感している層』が最も低くなっています。
15 項目中、『実感していない層』が最も高くなっています。

○　『実感していない層』が『実感している層』よりも 47.0 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	北勢	伊勢志摩、東紀州
性　　別		
年　　齢	20 歳代、40 歳代、70 歳～	30 歳代、50～60 歳代
主な職業	正規職員、学生、無職	自営業・自由業、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、その他の職業
配偶関係	離別・死別	有配偶
世帯類型	単独、三世代	二世代
世帯収入	～100 万円、800 万円～	100～400 万円、500～600 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-24 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　第１回調査以降、実感が高くなる傾向にあり、第１回調査時との比較における『実感していない層』の割合の減少幅は 15 の幸福実感指標の中で３番目に大きくなっています。
（『実感している層』：＋4.8 ポイント、『実感していない層』：－7.2 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域	東紀州	東紀州以外の各地域		
性　　別		全性別		
年　　齢		全年齢層	70 歳～	
主な職業	自営業・自由業	自営業・自由業、正規職員、ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾞｲﾄ･派遣、学生、専業主婦・主夫、無職	農林水産業	
配偶関係		全配偶関係		
世帯類型		全世帯類型		
世帯収入	～100 万円、400～500 万円		500～600 万円	

(3)　分析・考察

・第１回調査よりも実感は高くなっていますが、『実感していない層』が『実感している層』の 3.5 倍以上と大きく上回っています。

・属性別に見ると、多くの属性で第１回調査より実感が高くなっており、第１回調査時（平成 23 年）から、県内の有効求人倍率が大幅に改善していることが影響している可能性があります。

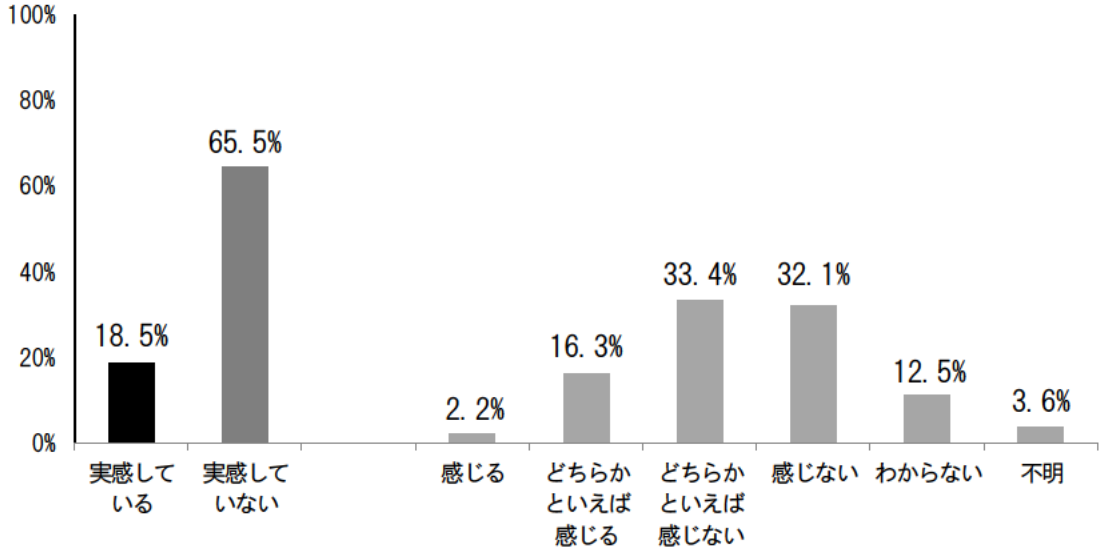
・職業別に見ると、学生については、大学生の就職率が５年連続で改善し、リーマンショック前を上回る高い水準にあることから、第１回調査から大幅に実感が高まっています。一方で、農林水産業については、職業の中で唯一、第１回調査より実感が低くなっており、平成 26 年の生産農業所得（生産農業所得統計）が、第１回調査時（平成 23 年）の所得を１割程度下回っていることが影響している可能性があります。

・非正規職員や低収入の属性において実感が低い傾向にあり、平成 23 年度以降、県内の有効求人倍率は改善を続ける一方で、就職件数は減少し続けており、求人・求職のミスマッチが影響している可能性があります。

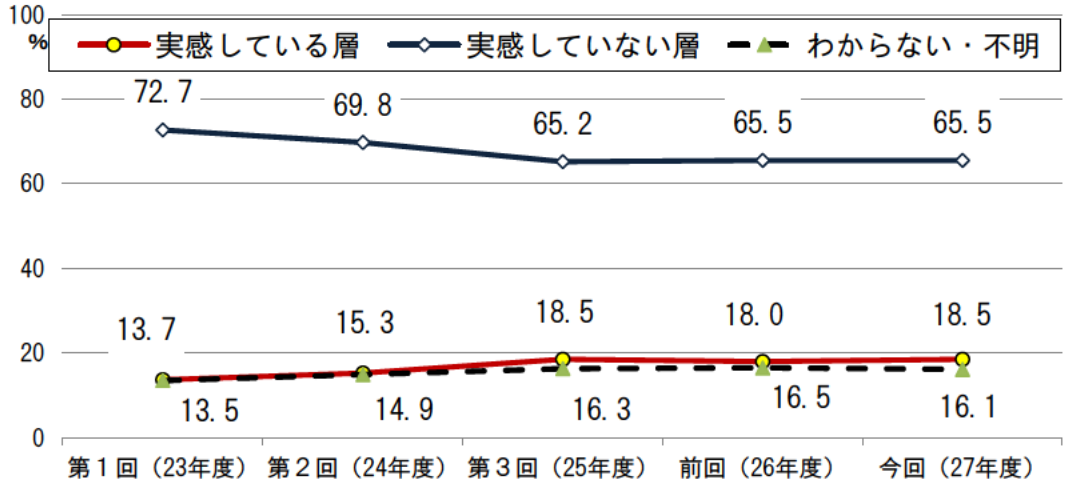
・自由記述では、「正規雇用（正社員）の募集が少ない」、「正社員と非社員の収入の格差が有りすぎる」といった意見があります。

・引き続き、雇用のミスマッチの解消に取り組むとともに、非正規職員の処遇改善や非正規から正規への雇用の転換に向けた取組が必要であると考えられます。

図表 2-2-23　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている）



図表 2-2-24 地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。

１５　道路や公共交通機関等が整っている（問２－１５）

(1)　今回調査結果の概要（図表 2-2-25 参照）

○　『実感している層』は 41. 0%、『実感していない層』は 51. 4%です。

○　『実感していない層』が『実感している層』よりも 10. 4 ポイント高くなっています。

○　特徴のある属性項目は次のとおりです。（県全体に比べて統計的に有意な差がある属性項目）

属　　性	実感している傾向が相対的に強い属性項目	実感している傾向が相対的に弱い属性項目
地　　域	北勢	伊賀、伊勢志摩
性　　別		男性
年　　齢	70 歳～	30 歳代、50 歳代
主な職業	無職	正規職員
配偶関係	離別・死別	
世帯類型		
世帯収入	～100 万円、500～600 万円	400～500 万円、600～800 万円

(2)　第１回調査からの推移（図表 2-2-26 参照）

○　全体結果（統計的に有意な水準で増減があるもの）

・　前回調査時よりも、実感が低くなり、『実感していない層』の割合の増加幅は 15 の幸福実感指標の中で最も大きくなっています。
（『実感している層』：－2. 1 ポイント、『実感していない層』：＋2. 2 ポイント）

・　第１回調査以降、前回調査までは実感が高くなる傾向にあったことから、第１回調査時と比較して、実感が高くなっています。
（『実感している層』：＋3. 5 ポイント、『実感していない層』：－4. 5 ポイント）

○　属性別の傾向（統計的に有意な水準で増減があるもの）

属　　性	実感が高くなっている属性項目		実感が低くなっている属性項目	
	対前回調査	対第１回調査	対前回調査	対第１回調査
地　　域		北勢、伊勢志摩、東紀州	中南勢	
性　　別		全性別	男性	
年　　齢		40 歳代、60 歳～	60 歳～	
主な職業		ﾊﾟｰﾄ･ﾊﾟｲﾄ･派遣、専業主婦・主夫、無職	農林水産業、無職	
配偶関係		有配偶、離別・死別	有配偶	
世帯類型		単独、一世代、二世代	一世代、三世代	
世帯収入			200～300 万円、400～500 万円、600～800 万円	

(3)　分析・考察

・第１回調査よりも実感は高くなっていますが、依然として、『実感していない層』が『実感している層』を上回っています。

・属性別に見ると、第１回調査よりも多くの属性で実感が高くなっています。前回調査では、中勢バイパスや北勢バイパス、四日市湯の山道路等の整備が進んだ北勢及び中南勢地域において特に実感が高まりましたが、今回調査では、中南勢地域において前回調査よりも実感が 4. 5 ポイント低くなっています。その理由としては、中勢バイパスへの交通量の増加に伴う交差点付近の慢性的な渋滞が影響している可能性があります。

・伊賀地域で特に実感が低く、伊賀市が実施した市民アンケート（平成 27 年 3 月実施）によると、「市外への公共交通網が充実していると思うか」との質問に対して、６割を超える市民が「いいえ」もしくは「どちらかといえばいいえ」と回答しており、自由記述でも「車が無いと生活が出来ない」といった意見があるなど、高齢化が進行する中で、自家用車に依存した地域交通への不安が影響している可能性があります。

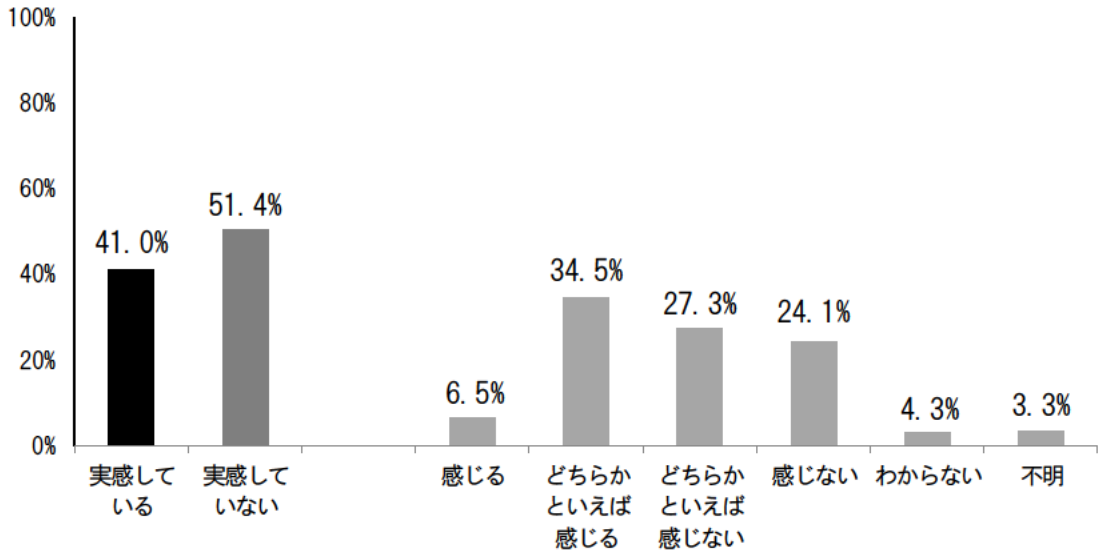
・今回調査における伊勢志摩サミットに期待することに関する質問項目において、「道路、通信環境等の整備」と回答している層は、回答してない層に比べて、『実感していない層』の割合が高くなっており、県全体の割合も上回っています（※）。

・引き続き、県民の皆さんの生活や地域の経済活動を支える道路網の整備を進めるとともに、地域のニーズに応じた公共交通の確保に取り組む必要があると考えられます。

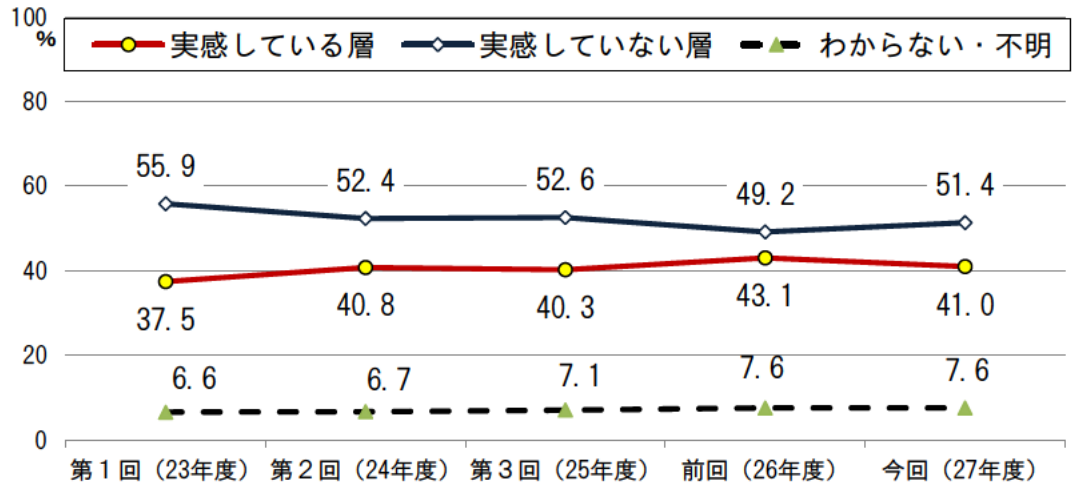
（※）回答している層(実感:34. 6%、非実感:60. 2%)、回答していない層(実感:44. 6%、非実感:46. 5%)

≪参考：第５回みえ県民意識調査　集計結果報告書　P94≫

図表 2-2-25　地域や社会の状況についての実感割合（今回調査結果）（道路や公共交通機関等が整っている）



図表 2-2-26　地域や社会の状況についての実感割合（第１回調査からの推移）（道路や公共交通機関等が整っている）



【備考】

1　『実感している』…「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合の合計
2　『実感していない』…「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合の合計
3　『実感している傾向が相対的に強い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて高い、あるいは『実感していない』割合が低い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
4　『実感している傾向が相対的に弱い属性項目』…『実感している』割合が県全体に比べて低い、あるいは『実感していない』割合が高い属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
5　『実感が高くなっている属性項目』…『実感している』割合が増加、あるいは『実感していない』割合が減少している属性項目（危険率５%未満で統計的に有意な差があるものを記載）
6　『実感が低くなっている属性項目』…『実感している』割合が減少、あるいは『実感していない』割合が増加している属性項目（危険率5%未満で統計的に有意な差があるものを記載）。